

# 6社増収5社増益

## 工事部門の採算改善

道路舗装大手8社の2024年4～9月期決算が13日、出そろった。公共工事を中心とする発注が堅調に推移し、前期からの繰越分を含む手持ち工事も順調に進捗したため6社が前年同期比で増収。本業のもうけを示す営業利益は5社が改善し、3社が減益となった。工事部門の利益は受注時採算の改善も進み回復基調にあるものの、合材製造部門は原油価格の高止まりに伴う製造コストの上昇や出荷量の減少が響き利益確保に苦戦した。

大手8社のうちNIPP Oと日本道路、東亜道路工業、世紀東急工業の4社は連結ベース、鹿島道路と大成ロテック、大林道路の3社は単体ベースで公表。前田道路は24年4～9月期が単体、25年3月期予想が連結の数字になる。

工事部門は手持ち工事を順調に消化。売上計上が進み利益率改善にも寄与した。単体の完成工事総利益（粗利益）率を見ると、前田道路が12・6%（前年同期比1・3%上昇）、鹿島道路が10・5%（0・8%

上昇）、大成ロテックが9・9%（3・9%上昇）、大林道路が11・8%（2・0%上昇）と上向いた。非公表の日本道路も「建設事業は工事管理の徹底によって採算性が向上した」という。

合材製造部門は原油価格が高止まりしている影響で、依然として原材料になるストレートアスファルト（ストアス）の卸値上昇分を販売価格に転嫁しきれず、採算確保に苦慮する。日本アスファルト合材協会（日合協）の統計では、製造量

（単位：億円、%。△はマイナス）

道路舗装大手8社の24年4～9月期連結決算

	売上高	営業利益	経常利益	純利益	単体受注高
NIPPO (非上場)	2,025 ( 8.8) 非公表 ( - )	100 ( 5.2) 非公表 ( - )	106 ( △0.1) 非公表 ( - )	71 ( 6.3) 非公表 ( - )	非公表 ( - ) 非公表 ( - )
前田道路 (非上場、単体)	1,140 ( 4.7) 2,615 ( 2.1)	64 ( 8.7) 197 ( 21.5)	71 ( 6.0) 198 ( 19.8)	49 ( 2.0) 132 ( 16.5)	1,358 ( 16.2) 非公表 ( - )
日本道路	730 ( △1.7) 1,650 ( 2.8)	26 ( △7.3) 85 ( 8.5)	28 ( △3.4) 86 ( 7.6)	17 ( 15.0) 52 ( 2.9)	736 ( 1.7) 非公表 ( - )
鹿島道路 (非上場、単体)	592 ( △5.7) 1,290 ( △1.9)	13 ( △47.0) 56 ( △5.3)	14 ( △45.2) 59 ( △5.6)	9 ( △47.1) 40 ( △9.5)	742 ( 11.3) 1,323 ( 0.5)
大成ロテック (非上場、単体)	569 ( 13.2) 1,202 ( 3.6)	15 ( - ) 39 ( △1.5)	15 ( - ) 39 ( △4.5)	10 ( - ) 26 ( 7.0)	577 ( 4.4) 1,192 ( △5.9)
東亜道路工業	538 ( 6.0) 1,260 ( 6.7)	1 ( △71.9) 60 ( 9.6)	3 ( △59.7) 61 ( 6.9)	6 ( 23.7) 39 ( 2.8)	非公表 ( - ) 非公表 ( - )
大林道路 (非上場、単体)	511 ( 7.1) 1,050 ( 2.3)	21 ( 73.9) 41 ( △6.1)	22 ( 72.2) 41 ( △6.4)	15 ( 76.8) 27 ( △2.9)	477 ( △11.0) 1,030 ( △11.2)
世紀東急工業	446 ( 12.7) 969 ( 10.1)	15 ( 52.0) 55 ( 34.9)	14 ( 45.4) 54 ( 33.6)	9 ( 8.6) 37 ( 35.0)	424 ( △8.8) 925 ( 1.5)

※下段は25年3月期予想、億円未満切り捨て。カッコ内は前年同期比

っている状況で利益を確保するためには「さらなる価格転嫁の継続が必要」（世紀東急工業）となる。

売上高の先行指標となる受注高は、公表6社のうち4社が前年同期を上回った。今後も受注環境は公共工事が堅調に推移し、民間投資もさらに持ち直していくと多くの社が予測する。各社が安定した環境で持続可能な経営を実現するために合材取引価格の適正化が急務。引き続き業界全体の課題として関係機関に働き掛けていくことが求められる。

